(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3859299号
(P3859299)
(45)発行日　平成18年12月20日(2006.12.20)　(24)登録日　平成18年9月29日(2006.9.29)

(51)Int.Cl.　F I
A63F 7/02 (2006.01)　A63F 7/02 312Z

請求項の数 3　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願平9-87652
(22)出願日　平成9年3月21日(1997.3.21)
(65)公開番号　特開平10-263149
(43)公開日　平成10年10月6日(1998.10.6)
審査請求日　平成14年11月18日(2002.11.18)

(73)特許権者　000132747
株式会社ソフィア
群馬県桐生市境野町７丁目２０１番地
(74)代理人　100098073
弁理士　津久井　照保
(72)発明者　井置　定男
群馬県桐生市宮本町３－７－２８

審査官　吉村　尚

最終頁に続く

(54)【発明の名称】弾球遊技機

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
可変表示装置の表示部を窓部に臨ませたセンターケースを遊技盤表面に形成された遊技領域のほぼ中央に配設し、前記センターケースの下方に始動口を配置し、
球が前記始動口に入賞すると前記可変表示装置にて図柄を変換表示し、該変換表示が所定の図柄態様で停止すると特別遊技が発生する弾球遊技機において、
前記センターケースは、
前記遊技盤表面に取り付ける取付ベースと、
前記取付ベースの表面から前方に庇状に突出して上面が左右方向にそれぞれ下り傾斜した鎧部と、
前記鎧部よりも下方の取付ベースの裏側に形成され、当該取付ベースに開設した開口部に前面開口が連通した凹室と、
前記遊技領域を流下する球を前記凹室側に誘導する誘導路が上面に形成された誘導部材と、
を備え、
前記凹室の後端の正面壁に前記窓部を開口し、
前記凹室は、
左右方向の中央に向かって下り傾斜するとともに少なくとも傾斜下端部分が取付ベースの開口部側に下り傾斜した底面と、
前記底面の取付ベース側に沿って起立し底面上の球が開口部から前方に流下することを

阻止する障害部材と、
前記底面の傾斜下端部分に対応した位置の障害部材に開設されて球が底面上から遊技盤表面側に放出されることを許容する球放出口と、
を備え、誘導部材により誘導した球を凹室の底面上を転動させて球放出口から遊技盤表面に放出する構成とし、
前記鎧部は、傾斜上面の頂部を右に偏った位置に配置して左右非対称形とし、
前記誘導部材を、前記頂部の偏りと反対側の傾斜下端の下方に配設したことを特徴とする弾球遊技機。
【請求項２】
前記誘導部材は、左右方向の途中を支軸により軸支するとともに揺動範囲規制部材を設けて所定範囲内で揺動自在とし、
球が前記誘導路上を転動して前記支軸を通過した部分に段差を形成して、
球が載らない常態では凹室側端部を上昇した状態で停止し、球が載って誘導路上を転動して支軸を通過すると前記段差を落下して凹室側端部を下降するようにしたことを特徴とする請求項１に記載の弾球遊技機。
【請求項３】
球放出口近傍の障害部材から凹室の奥側に向かって突出する案内凸部を底面上に配置し、底面上を左右方向に転動する球が案内凸部に当って凹室の奥側に案内されるようにしたことを特徴とする請求項１または２に記載の弾球遊技機。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、センターケースを装着したパチンコ機などの弾球遊技機に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
代表的な弾球遊技機であるパチンコ機においては、球が流下する遊技領域のほぼ中央にセンターケースを取り付け、このセンターケースに庇状に設けられた鎧部によって上方から流下してきた球を左右いずれかに振り分け、これにより鎧部の下方に設けた可変表示装置等の前面を球が遮って流下することを防止したり、或はセンターケースの一部に設けた球導入部分からセンターケースの凹室内に球を導入したりしている。このため、従来のセンターケースは、鎧部の形状が左右対称の山形であり、なだらかな傾斜上面の頂部を遊技領域のほぼ中央に位置させ、これにより上方から流下してきた球が鎧部上に一旦載ってから左右ほぼ均等に流れるように構成している。そして、可変表示装置等は遊技を左右する重要な部分であるために遊技領域の中央に配置することが求められ、結果的にセンターケースは遊技領域の中央に配置することになる。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
しかしながら、遊技領域の中央にセンターケースを配置すると、球の発射の際は、発射した球の流下を安定させるために、一般的には遊技領域の左側を狙って発射することが多いにも拘らず、初心者など不慣れな遊技者は遊技領域の中央を狙って発射するので、公平感に欠くことがある。
【０００４】
また、遊技領域の中央に、凹室内に球を誘導する誘導部材を設ける場合、鎧部により球が左右に振り分けられて流下するからといって誘導部材をセンターケースの左右に設けると、各誘導部材に向けて球の流下方向を変更し得る障害釘群を左右両方に植設して、これらをそれぞれ調整することが必要となり、調整が煩雑となる。障害釘の調整箇所が多いと、調整作業に要する時間と手間、および熟練者を確保することが困難になりつつある昨今にあっては遊技店の負担が増大する。
【０００５】
そして、左右両誘導部材から球が誘導されて凹室内に流入すると、凹室内でこれらの球が

衝突する虞れが多く、好ましくないし、センターケースの一方にだけ誘導部材を設けると、遊技領域の左右に振り分けられた片側半分の球だけしか凹室内に誘導され得るチャンスが与えられないこととなり、遊技者の入賞期待感を減殺してしまう。

【０００６】

さらに、鎧部が常に左右対称形であると、デザイン上の制限となり、斬新なデザインを採用し難い。

【０００７】

そこで、本発明の目的は、遊技領域の中央に配置されても球を左右方向のいずれか一方に振り分け得るセンターケースを装着した弾球遊技機を提供しようとするものである。

【０００８】

【課題を解決するための手段】

本発明は上記目的を達成するために提案されたもので、請求項１に記載のものは、可変表示装置の表示部を窓部に臨ませたセンターケースを遊技盤表面に形成された遊技領域のほぼ中央に配設し、前記センターケースの下方に始動口を配置し、

球が前記始動口に入賞すると前記可変表示装置にて図柄を変換表示し、該変換表示が所定の図柄態様で停止すると特別遊技が発生する弾球遊技機において、

前記センターケースは、

前記遊技盤表面に取り付ける取付ベースと、

前記取付ベースの表面から前方に庇状に突出して上面が左右方向にそれぞれ下り傾斜した鎧部と、

前記鎧部よりも下方の取付ベースの裏側に形成され、当該取付ベースに開設した開口部に前面開口が連通した凹室と、

前記遊技領域を流下する球を前記凹室側に誘導する誘導路が上面に形成された誘導部材と、

を備え、

前記凹室の後端の正面壁に前記窓部を開口し、

前記凹室は、

左右方向の中央に向かって下り傾斜するとともに少なくとも傾斜下端部分が取付ベースの開口部側に下り傾斜した底面と、

前記底面の取付ベース側に沿って起立し底面上の球が開口部から前方に流下することを阻止する障害部材と、

前記底面の傾斜下端部分に対応した位置の障害部材に開設されて球が底面上から遊技盤表面側に放出されることを許容する球放出口と、

を備え、誘導部材により誘導した球を凹室の底面上を転動させて球放出口から遊技盤表面に放出する構成とし、

前記鎧部は、傾斜上面の頂部を右に偏った位置に配置して左右非対称形とし、

前記誘導部材を、前記頂部の偏りと反対側の傾斜下端の下方に配設したことを特徴とする弾球遊技機である。

【０００９】

請求項２に記載のものは、前記誘導部材は、左右方向の途中を支軸により軸支するとともに揺動範囲規制部材を設けて所定範囲内で揺動自在とし、

球が前記誘導路上を転動して前記支軸を通過した部分に段差を形成して、

球が載らない常態では凹室側端部を上昇した状態で停止し、球が載って誘導路上を転動して支軸を通過すると前記段差を落下して凹室側端部を下降するようにしたことを特徴とする請求項１に記載の弾球遊技機である。

【００１０】

請求項３に記載のものは、球放出口近傍の障害部材から凹室の奥側に向かって突出する案内凸部を底面上に配置し、底面上を左右方向に転動する球が案内凸部に当って凹室の奥側に案内されるようにしたことを特徴とする請求項１または２に記載の弾球遊技機である。

【００１１】

【発明の実施の形態】
以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。
図１は代表的な弾球遊技機であるパチンコ機に装着する遊技盤１の正面図、図２はセンターケースの正面図である。
【００１２】
図１に示す遊技盤１の表面にはガイドレール２等の区画部材により略円形に区画した遊技領域３を形成し、この遊技領域３のほぼ中央に、センターケース４によって囲むようにして可変表示装置５を配設し、センターケース４の下方に始動口６を、その下方に大入賞口７を配置し、また、他の遊技領域３には入賞具９や風車１０などを配設するとともに多数の障害釘を植設する。この遊技盤１を装着したパチンコ機では、球が始動口６に入賞すると、可変表示装置５が３桁の図柄等を高速で変換表示する可変表示ゲームが開始され、変換表示が停止したときに「７，７，７」など所定の態様で図柄が停止すると「大当り」となって特別遊技の権利が発生し、特別遊技が開始されると大入賞口７が開いて球が入賞し易い状態で遊技を行うことができる。
【００１３】
センターケース４は、遊技盤１表面に取り付ける取付ベース１５と、取付ベース１５の表面から前方に庇状に突出して上面が左右方向にそれぞれ下り傾斜した鎧部１６と、鎧部１６の一方の傾斜下端の下方に配設した誘導部材１７と、鎧部１６よりも下方の取付ベース１５の裏側に形成した凹室２０とが本実施形態における主要な構成部材であり、凹室２０の正面の正面壁２１に開口した窓部２２内に可変表示装置５の表示部を臨ませてある。したがって、このセンターケース４を遊技盤１の表面に取り付ける場合には、可変表示装置５の左右方向の中央、即ち取付ベース１５に開設した開口部２３と窓部２２の左右方向の共通した中央を遊技領域３の左右の中心に合わせて取り付ける。このため、遊技者がパチンコ機に向かって座ると、真正面に可変表示装置５の表示部が位置する。
【００１４】
取付ベース１５は、横長楕円形の開口部２３を有する板材であり、この開口部２３の上方部分は一側（右側）に進むに従って上下長さを増大させ、全体としてエンゼルフィッシュを模した形状に成形し、周縁には止着孔２４…を数カ所開設してある。そして、上記開口部２３の下側の開口縁は、図３（ａ）に示すように、本実施形態においては後述する障害部材２５として機能する部分であり、この開口縁の左右のほぼ中央、換言すれば開口縁の最も低い部分に、縁を更に一段低くした切欠状の球放出口２６を開設し、図４及び図３（ｂ）に示すように、球放出口２６の右側の開口縁の裏面上端から後方に向けて略三角形の凸片を案内凸部２７として突設する。また、図３に示すように、開口部２３の開口縁から後方に向けて壁部３０を短筒状に形成して補強する。そして、この短筒状の壁部３０に囲まれた開口部２３内に略枠状の凹室ケース３１を嵌合することにより凹室２０を形成する。
【００１５】
凹室２０は、取付ベース１５の開口部２３の形状に応じて底面３２、左右側面３３，３３、天井面３４を連続させてこれら一連の滑らかな面で横長楕円形の奥行きとするとともに、底面３２、左右側面３３，３３、天井面３４の各後端に連続させて正面壁２１を形成し、この正面壁２１に略矩形の窓部２２を開設する。そして、底面３２は、上記横長楕円形の下部形状に応じて左右から中央に向かってなだらかに彎曲した下り傾斜面とするとともに、前方の開口側に向けて緩やかに下り傾斜する。また、この底面３２の前方開口側の縁が、取付ベース１５の開口部２３の開口下縁よりも低く位置するように設定してあり、底面３２の傾斜下端部分では前記球放出口２６の下縁と同じ高さ或は僅かに高い位置に位置するように設定してある。したがって、取付ベース１５の開口下縁の部分が、図３に示すように、底面３２の取付ベース１５側に沿って起立し、底面３２上の球が開口部２３から前方に流下することを阻止する壁状の障害部材２５として機能することになり、また、底面３２の傾斜下端部分に対応した位置に前記球放出口２６が臨むとともに、取付ベース１５に一体成形した案内凸部２７が底面３２の少し上方に位置することとなる。

【００１６】
次に、取付ベース１５に取り付ける鎧部１６について説明する。
この鎧部１６は、上面が頂部から左右になだらかに下り傾斜する曲面で構成され、しかも頂部は取付ベース１５の開口部２３の左右中央よりも左右いずれか一方（図中右側）に偏った位置に配置され、取付ベース１５の上方部分に応じて一側（右側）に進むに従って次第に厚さを増大させた左右非対称形の中空部材であり、彎曲した上面の頂部には上向き突起としての突条３６を前後方向に一体成形してある。したがって、鎧部１６の上面は、突条３６を境界として左右に明確に区分けされ、突条３６よりも左側の長さが突条３６の偏り分だけ右側の長さよりも長尺である。また、本実施形態の鎧部１６は、装飾ランプとしても機能させるので、透光性を有するプラスチック製とし、内表面にはレンズ機能を有する細い凹凸溝を多数形成してある。なお、この鎧部１６を取付ベース１５に取り付けるには、取付ベース１５の裏側からねじ止め等の固定手段により固定する。この様にして取り付けると、鎧部１６の頂部が開口部２３の左右中心よりも右側に位置する。
【００１７】
次に、誘導部材１７について説明すると、この誘導部材１７は、図２及び図５に示すように、垂直方向に延在する横長な前端板４０と、この前端板４０の裏面に一体成形した左右方向の球載板４１と、球載板４１の左右方向の途中を支える支軸４２などから構成されており、球載板４１上の面が一端（図中右側であり凹室２０側）に向かって下り傾斜して誘導路４３となり、この誘導路４３から球がこぼれ落ちないように前端板４０の上部が誘導路４３よりも高く起立し、また、誘導路４３上を転動した球が凹室２０の奥に向かって落下するように傾斜下端には球の流下方向を凹室２０奥に向けて変更する流下方向規制部４４を立設し、この手前の誘導路４３は凹室２０の奥に向けて僅かに下り傾斜させてある。また、この誘導部材１７は、誘導路４３上を球が転動して揺動するが、この揺動範囲を規制する揺動範囲規制部材として揺動範囲規制ピン４５を後方に向けて突設してある。
【００１８】
この誘導部材１７を取付ベース１５に取り付けるには、頂部の偏りとは反対側に位置する鎧部１６の傾斜下端（図中左側下端）の下方に、球が通過し得る間隔を開けた位置に形成した軸受内に支軸４２を遊嵌するとともに、取付ベース１５に開設した円弧長孔４６内に揺動範囲規制ピン４５を遊嵌し、支軸４２の後端にＥリング等の抜け止めを施して取り付ける。
【００１９】
この様にして誘導部材１７を取付ベース１５に揺動自在な状態で取り付けると、誘導部材１７の外側の端部（導入口側端部４３ｂ）が鎧部１６の端部よりも外方、即ち遊技領域３側に突出し、球が載らない常態では、自重による付勢力により凹室２０側端部（導出口側端部４３ａ）を上昇して外方の端部を下降した状態で停止している。そして、球が誘導路４３の導入口側端部４３ｂ上に載ると、この球は誘導路４３の下り傾斜により導出口側端部４３ａに向かって転動し、支軸４２を通過すると、球の自重により誘導部材１７が支軸４２を中心にして時計方向に揺動する。
【００２０】
なお、本実施形態では、支軸４２を通過した部分に段差４７を形成しておき、球が支軸４２を通過して段差４７を落下すると、この落下の衝撃力で誘導部材１７が確実に揺動するように構成されている。また、段差４７の下流側の誘導路４３は、凹室２０内に臨んでいるので、この部分は凹室２０側に向けて、即ち後方に向けて下り傾斜を付けてある。
【００２１】
球が更に転動して導出口側端部４３ａに到達すると、この球は流下方向規制部４４に案内されて流下方向をほぼ９０°変更して凹室２０側に向けて流下し、凹室２０内の底面３２上に落下する。誘導部材１７上から球が落下すると、誘導部材１７は、自重により支軸４２を中心にして反時計方向に戻り揺動し、導入口側端部４３ｂを下降した初期状態に復帰する。
【００２２】

なお、誘導部材１７が揺動する範囲は、揺動範囲規制ピン４５が円弧長孔４６内を移動し得る範囲である。本実施形態における誘導部材１７は、前端板４０を魚の口を模した形状に成形してあるので、球を導入する度に揺動すると、取付ベース１５の形状と相俟って、魚の口がパクパク開閉するような様子を呈する。すなわち、球が誘導部材１７により凹室２０内に導入されると、その度に魚の口がパクパク動いて餌（球）を飲み込む様子を遊技者に見せることができる。このため、この誘導部材１７の動きが装飾効果を発揮して、遊技者になごやかな遊技の楽しさを与えることができる。また、誘導部材１７により凹室２０内に導入された球は、後述するように、遊技者にとっては「大当り」に繋がる球の流れなので、上記装飾効果と相俟って遊技者の期待感を高めることができる。

【００２３】

次に、上記した構成からなるセンターケース４を装着したパチンコ機における球の流れについて簡単に説明する。

パチンコ遊技においては、遊技領域３の中央よりも少し左側を狙って球を発射することが基本的な球の発射要領であるが、初心者などは中央を狙って発射することも少なくない。この様な場合、従来であればセンターケースの鎧部が左右対称形であり、このために中央を狙って発射された球はセンターケースにより左右に振り分けられる確率は殆ど同じになり、結果的には、左側からの流路を流下した方が入賞し易いセンターケース下方の始動口等への入賞確率を高くすることが困難であった。しかしながら、本実施形態におけるパチンコ機においては、中央を狙って発射した場合であっても、鎧部１６の頂部が偏っているので、この偏り方向と反対側により多くの球が振り分けられることになり、初心者の不慣れを解消することができる。

【００２４】

鎧部１６により右側に振り分けられた球は凹室２０内に誘導されることなく流下するが、左側に振り分けられたより多くの球は、鎧部１６の傾斜下端に誘導部材１７が配設されているので、この誘導部材１７上に載って凹室２０内に導入されるチャンスが与えられる。図２の実施形態では鎧部１６の傾斜下端と誘導部材１７の端部との間に臨ませて障害釘５０，５０を植設してあるので、この障害釘５０，５０の間を運良く通過すると、誘導部材１７上に載る。

【００２５】

なお、障害釘５０，５０の間を通過し得る球は、鎧部１６によって左側に振り分けられた球に限定されるものではなく、遊技領域３の左側を狙って発射されて鎧部１６に振り分けられることなく流下してきた球も誘導部材１７上に載るチャンスが多々与えられている。また、誘導部材１７の入口側の障害釘５０，５０の間を通過することができなくて誘導部材１７上に載ることができなかった球であっても、図２の実施形態においては、その下方に風車１０と障害釘列５１による流路構成により、センターケース４の下方に配設された始動口６に入賞するチャンスが与えられている。

【００２６】

誘導部材１７上に球が載ると、前記したように、誘導路４３の下り傾斜により球が凹室２０側に向かって転動し、支軸４２を通過すると、球の重みで誘導部材１７が時計方向に揺動する。そして、さらに球が転動して傾斜下端で方向変換すると、凹室２０内に入って底面３２上に落下する。球が落下した後、誘導部材１７は自重により戻り揺動し、初期状態に戻る。

【００２７】

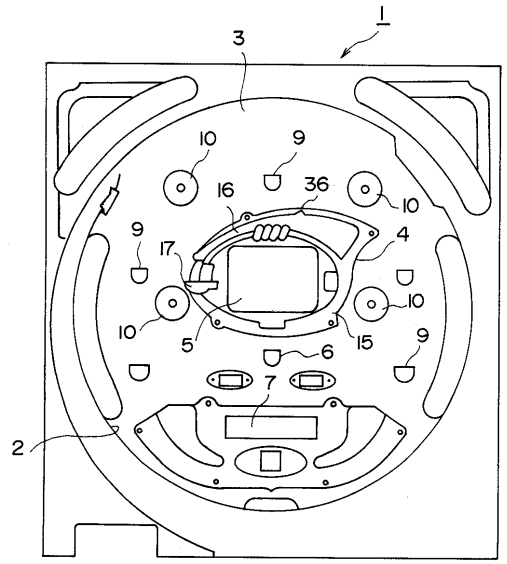
凹室２０内の底面３２上に落下した球は、落下地点が彎曲した底面３２の一側である傾斜上部なので、この底面３２の下り傾斜により他側（図中左側から右側）に向かって流下する。また、この場合、誘導部材１７から落下した球は、凹室２０の奥に向かって流下するので、底面３２上を流下し始めてすぐに障害部材２５に当たることは稀であり、底面３２の前後幅の中央からその奥の部分を流下する。したがって、誘導部材１７から落下して底面３２の左半を流下しただけで球放出口２６から遊技盤１表面側に放出されることは少ない。

【００２８】
そして、この左半底面３２上を流下することにより加速された球は、底面３２の傾斜下端（左右方向の中央部分）を通過し、案内凸部２７の奥の底面３２上を通って右半底面３２上を駆け登り、この登り傾斜で減速された球は途中で反転し、今度は右側から左側に向かって流下する。この頃には球は底面３２の前方への下り傾斜により障害部材２５に近付いて、或は障害部材２５に沿って流下し、傾斜下端近傍では案内凸部２７に当接する。
【００２９】
球が案内凸部２７に当接すると、この案内凸部２７は凹室２０の奥に向けて突出しているので、流下してきた球を凹室２０の奥に向かって流下方向を案内する。したがって、球は障害部材２５から遠のいて底面３２の奥を左方向に向かって流下することになり、右半の底面３２を流下してそのまま球放出口２６から放出される球を減少させることができる。傾斜下端を通過して左半の底面３２を駆け登って再度反転して流下してきた球は、案内凸部２７に当接して再度奥に案内されて再度右半の底面３２を駆け登ったり、或は案内凸部２７に当たっても案内凸部２７を通過することができず、球放出口２６から遊技盤１表面側に放出される。
【００３０】
この様に、本実施形態では、底面３２の傾斜下端近傍に臨ませて設けた案内凸部２７により流下してきた球を凹室２０の奥側に案内して、底面３２上を左右に何度も流下させて、この底面３２上の滞在時間を延長させ、これにより遊技者に視認し易くしている。また、凹室２０内に球を誘導する誘導部材１７は、球の載置により揺動して球を凹室２０内に落下させるので、導入した球の勢い等にランダム性を持たせることができる。さらには、球が誘導部材１７により誘導されて凹室２０内に入り、底面３２上を左右に往復転動して球放出口２６から放出されるまでをすべて視認することができるので、入口から入って途中の流路内を流下している間の球を見ることができないで突然凹室２０内に球が導入される従来のワープ式球導入構造に比較して、球の行方を安心して見きわめることができる。
【００３１】
球放出口２６から放出された球は、障害釘に当たって跳ね返った球に比べて素直に殆ど垂直に流下するので、球放出口２６の下方に配設された始動口６に入賞し易い。したがって、誘導部材１７によってセンターケース４の凹室２０内に誘導された球は、始動口６に入賞する確率が他の流路を流下してきた球に比較して高いこととなり、遊技者にとっては「大当り」の前提である可変表示ゲームのチャンスを増やす球である。
【００３２】
なお、始動口６に入賞して可変表示装置５により可変表示ゲームを行っている最中に、引き続き球が始動口６に入賞した場合には、可変表示ゲームの権利が所定数（例えば４個）まで記憶（保留）され、この記憶数は、センターケース４に設けた記憶数表示器５２に可視表示される。
【００３３】
また、上記した実施形態では、球が始動口６に入賞すると凹室２０の正面窓部２２に設けた可変表示装置５により可変表示ゲームを行うようにしたが、これに限定されるものではなく、可変表示装置５を別の部位、例えば鎧部１６の右側に７セグメント式可変表示器５'を設け、凹室２０の正面窓部２２の表示器には装飾表示を行うように構成してもよい。
【００３４】
なお、本発明における弾球遊技機はパチンコ機に限定されるものではなく、雀球式遊技機、アレンジボール式遊技機などでもよい。また、凹室２０内に入賞口を設けて、誘導部材１７によって誘導された球を凹室２０内で入賞するように構成してもよい。
【００３５】
【発明の効果】
以上説明したように本発明によれば、以下の効果を奏する。
すなわち、請求項１の発明によれば、鎧部を、傾斜上面の頂部を右に偏った位置に配置して左右非対称形としたので、遊技領域の中央よりも少し左側を狙って球を発射することが

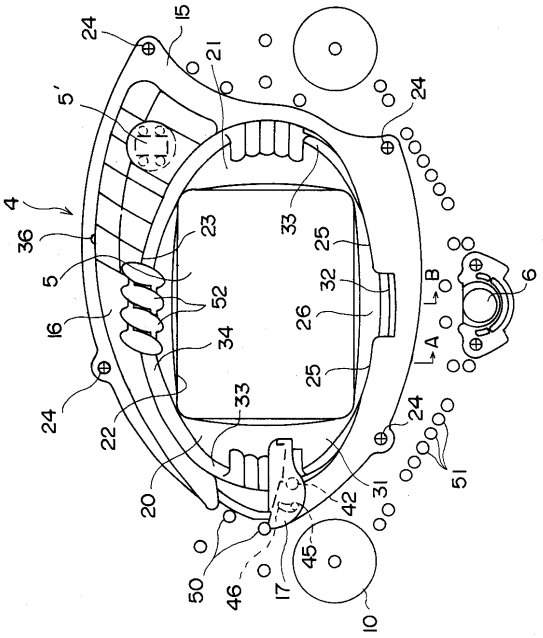
基本的な球の発射要領であるが、遊技領域の中央を狙って発射しても、鎧部の頂部の右への偏り方向と反対側により多くの球が振り分けられることになり、初心者の不慣れを解消することができる。
また、左右対称形にする必要がないので、デザインの自由度を拡大することができる。
【００３６】
さらに、頂部の偏りとは反対側に位置する鎧部の傾斜下端の下方に、球を誘導する誘導部材を配設し、誘導部材により誘導した球を凹室の底面上を転動させて球放出口から遊技盤表面に放出する構成としたので、球放出口の下方に配設された始動口に入賞し易くなり、入賞の期待感を高めるなど遊技の興趣を高揚することができる。
また、誘導部材は、前記頂部の偏りと反対側の傾斜下端の下方に配設するだけなので、この誘導部材への球の流路に関係した障害釘の調整は左について行なうだけでよい。したがって、釘調整作業の簡略化を図ることができる。
【００３７】
請求項２の発明によれば、誘導部材は、左右方向の途中を支軸により軸支するとともに揺動範囲規制部材を設けて所定範囲内で揺動自在とし、球が前記誘導路上を転動して前記支軸を通過した部分に段差を形成して、球が載らない常態では凹室側端部を上昇した状態で停止し、球が載って誘導路上を転動して支軸を通過すると前記段差を落下して凹室側端部を下降するようにしたので、球が凹室内に誘導される度に段差による落下の衝撃力で誘導部材が確実に揺動する。
したがって、遊技者は誘導部材の揺動により球が凹室内に誘導されたことを視覚を通して確認し易い。また、誘導部材の揺動によって視覚上の装飾効果を高めることができるとともに、遊技に変化を与えることができる。
【００３８】
請求項３の発明によれば、球放出口近傍の障害部材から凹室の奥側に向かって突出する案内凸部を底面上に配置し、底面上を左右方向に転動する球が案内凸部に当って凹室の奥側に案内されるようにしたので、底面上を左右方向に転動している時間を長くすることができる。したがって、遊技者から一層視認し易くなり、導入された球の見落としを確実に防止することができる。
【図面の簡単な説明】
【図１】パチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図２】センターケースの正面図である。
【図３】（ａ）は図２中の矢印Ａで示す凹室の底面部分の断面図、（ｂ）は図２中の矢印Ｂで示す凹室の底面部分の断面図である。
【図４】底面の傾斜下端部分の平面図である。
【図５】誘導部材の平面図である。
【符号の説明】
１　遊技盤
２　ガイドレール
３　遊技領域
４　センターケース
５　可変表示装置
６　始動口
７　大入賞口
９　入賞具
１０　風車
１５　取付ベース
１６　鎧部
１７　誘導部材
２０　凹室
２１　正面壁

２２　窓部
２３　開口部
２４　止着孔
２５　障害部材
２６　球放出口
２７　案内凸部
３０　壁部
３１　凹室ケース
３２　底面
３３　側面
３４　天井面
３６　突起としての突条
４０　前端板
４１　球載板
４２　支軸
４３　誘導路
４４　流下方向規制部
４５　揺動範囲規制ピン
４６　円弧長孔
４７　段差
５０　障害釘
５１　障害釘列
５２　記憶数表示器

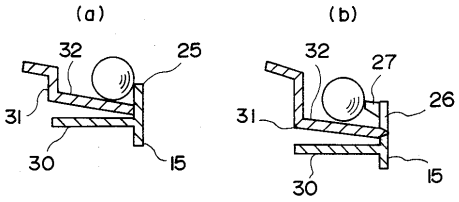
【図１】



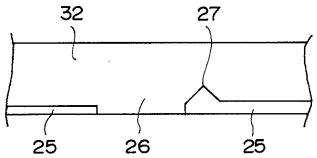
【図２】



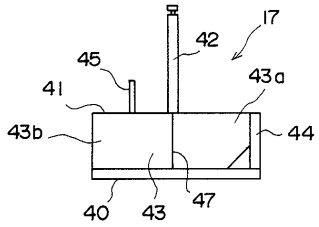
【図３】


(a)
(b)
32
25
31
30
15
32
27
26
31
30
15

【図４】


32
27
25
26
25

【図５】


17
42
45
43a
41
43b
44
40
43
47

フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０６－１７００４１（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－２４９０１１（ＪＰ，Ａ）
パチンコ必勝ガイド２／９号増刊 パチンコ必勝ガイド爆裂年鑑’９７，日本，株式会社白夜書房，１９９７年 2月 9日，第9巻第3号（通巻第２１４号），２１２－２１３

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A63F 7/02